

(仮訳)

プレス・リリース

2017年1月12日

金融安定理事会

**金融安定理事会が
「資産運用業の活動から生じる構造的な脆弱性に対応する政策提言」
を公表**

金融安定理事会（FSB）は本日「資産運用業の活動から生じる構造的な脆弱性に対応する政策提言」を公表した。当該文書は潜在的に金融安定リスクをもたらす資産運用業の活動から生じる下記の構造的な脆弱性に対応する14の最終政策提言を提示している。

- (i) ファンドの投資とオープンエンド型ファンドの解約に係る契約条件との間の流動性ミスマッチ
- (ii) 投資ファンドにおけるレバレッジ
- (iii) オペレーショナルリスクおよびストレス時の資産運用業者における課題
- (iv) 資産運用業者とファンドによる証券貸借取引業務

資産運用業の活動は、投資家に日次の解約を提供するオープンエンド型ファンド等を通じて、過去10年間で著しく増加した。このような成長は、取引があまり活発ではない市場における特定の資産クラスに対する投資の増加も伴っている。資産運用業者を通じたさらなる市場型金融仲介へのトレンドは、金融システムの効率性を高め、全体の強靭性に寄与すべきものである。歴史的には、概して近年のストレス時にオープンエンド型ファンドは金融安定に対する懸念を生じさせなかったことが示される一方、当該セクターの成長及び投資ファンドによる低流動性資産の保有増加は、近年リスクが増加している可能性を示している。

流動性ミスマッチの分野では、本提言はオープンエンド型ファンドに関する流動性リスク管理の枠組み及び実務の強化のみならず当局及び投資家への情報及び透明性の向上を意図している。本提言は当局によるシステムワイド・ストレステストの潜在的な利用にも対応している。レバレッジに関する提言は投資ファンドにおけるレバレッジの計測及びモニタリングに焦点を当てている。オペレーショナルリスクに関する提言は、リスク管理の枠組み及び実務が資産運

用業者の活動が金融システムに与えるリスクのレベルと同等であることを確保するのに役立つ。証券貸借に関する提言は、証券貸借業務との関係で資産運用業者が顧客に対して提供される補償に焦点を当てている。

FSB は 2016 年 6 月に[政策提言案](#)を市中協議に付した。本日公表された最終提言は当該協議への[回答](#)を含む提言案への多くの変更を反映している。とりわけ流動性に関する提言は当局が一貫した報告要件を策定し、当局及び投資家にとって有用な情報を選別し、現段階でのシステムワイド・ストレステストの予備的な性質を強調するために修正された。レバレッジ指標の目的及び利用も明確化された。

マーク・カーニーFSB 議長は、「資産運用業の近年の成長は新たな信用取引及び投資をもたらし、金融システムに多様性を加えている。強固で、持続可能かつバランスの取れた経済成長を支えるのに役立つ市場型金融の枠組みであり続けることができるよう、本日公表された政策提言は、資産運用業の強靭性を高めるだろう。これは私たちの経済にとって永続的な利益となるだろう。」と述べた。

「FSB 規制監督上の協調に係る常設委員会」のダニエル・タルーロ議長は、「本政策提言は資産運用業者及びファンドに将来のストレイメントに対する十分な準備をさせるだろう。さらに、本提言は資産運用業セクターから生じる潜在的なリスクを法域内・間で把握するために当局が入手可能な情報を顕著に強化する。」と述べた。

IOSCO 代表理事会議長兼 FSB 運営委員会メンバーのアシュレー・オルダー氏は、「本日公表された政策提言は、金融市場全体及び活動ベースの観点から資産運用業における潜在的な金融安定の課題に対応するための重要なステップである。IOSCO はこの重要な金融セクターの全体的な健全性を高めるよう流動性ミスマッチ及びレバレッジに関する提言を進めていく。」